



2026年9月期 第3四半期決算短信〔日本基準〕(連結)

2026年8月7日
東

上場会社名 株式会社Waqoo 上場取引所
コード番号 4937 URL <https://waqoo.jp/>
代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 佐俣 文平
問合せ先責任者 (役職名) 執行役員 (氏名) 古谷 恵輔 (TEL) 03-6805-4600
コーポレート本部長
配当支払開始予定日 —
決算補足説明資料作成の有無 : 有
決算説明会開催の有無 : 有

(百万円未満切捨て)

1. 2026年9月期第3四半期の連結業績(2025年10月1日～2026年6月30日)

(1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2026年9月期第3四半期	2,039	54.9	415	—	409	—	392	—
2025年9月期第3四半期	1,316	△7.6	△32	—	△33	—	△61	—

(注) 包括利益 2026年9月期第3四半期 392百万円(—%) 2025年9月期第3四半期 △61百万円(—%)

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
2026年9月期第3四半期	110.92	110.72
2025年9月期第3四半期	△17.10	—

(注) 2025年9月期第3四半期の潜在株式調整後1株当たり四半期純利益については、潜在株式は存在するものの、1株当たり四半期純損失であるため、記載しておりません。

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
2026年9月期第3四半期	3,683	2,511	67.8
2025年9月期	3,199	2,091	65.1

(参考) 自己資本 2026年9月期第3四半期 2,495百万円 2025年9月期 2,082百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2025年9月期	—	0.00	—	0.00	0.00
2026年9月期	—	0.00	—	—	—
2026年9月期(予想)	—	—	—	0.00	0.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

3. 2026年9月期の連結業績予想(2025年10月1日～2026年9月30日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	2,750	40.2	560	271.0	550	260.9	410	829.9	115.57

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 有

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における連結範囲の重要な変更 : 無
新規 ー社(社名)ー、除外 ー社(社名)ー

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
- ② ①以外の会計方針の変更 : 無
- ③ 会計上の見積りの変更 : 無
- ④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数(普通株式)

① 期末発行済株式数(自己株式を含む)	2026年9月期3Q	3,663,068株	2025年9月期	3,622,668株
② 期末自己株式数	2026年9月期3Q	100,023株	2025年9月期	100,023株
③ 期中平均株式数(四半期累計)	2026年9月期3Q	3,542,605株	2025年9月期3Q	3,597,412株

※ 添付される四半期連結財務諸表に対する公認会計士又は監査法人によるレビュー : 無

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

業績予想につきましては、現時点で入手可能な情報に基づき当社が判断したものであり、リスクや不確定な要素等の要因が含まれており、実際の業績は記載の見通しとは異なる可能性があります。なお、上記業績予想に関する事項は、3ページ「1. 当四半期決算に関する定性的情報(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	5
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	5
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記	6
(1) 四半期連結貸借対照表	6
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	8
四半期連結損益計算書	8
第3四半期連結累計期間	8
四半期連結包括利益計算書	9
第3四半期連結累計期間	9
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	10
(継続企業の前提に関する注記)	10
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	10
(セグメント情報等)	10
(キャッシュ・フロー計算書に関する注記)	11
(重要な後発事象)	11

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

(業績の状況)

文中の将来に関する事項は、当第3四半期連結累計期間の末日現在において判断したものであります。

当第3四半期連結累計期間(2025年10月1日～2026年6月30日)における我が国経済は、雇用・所得環境の改善が続く一方、物価上昇の継続や海外経済の先行き不透明感等の影響により、景気は緩やかな回復基調で推移いたしました。

【当第3四半期連結累計期間のポイント】

- ① 事業ポートフォリオが「転換フェーズ」から「収益化フェーズ」への移行を継続
- ② PDF-FDの提携医院数・加工受託件数が拡大し、ストック収益が継続して蓄積
- ③ 新商材/商流開拓といった、メディカル領域のサポートを着実に実行

当社グループは、再生医療領域を中心とする事業ポートフォリオの構築転換を成長機会と捉えた戦略的取り組みを推進してまいりました。具体的には、収益成長を牽引するメディカルサポート事業において、血液由来加工サービス「PDF-FD」(※1)を中心に、提携医療機関の拡大に加え、既存提携先の稼働率向上を重視した営業活動を推進いたしました。その結果、提携医療機関ネットワークの拡充と加工受託件数の積み上がりが進展し、ストック型収益の拡大による収益基盤の強化が進捗しました。

【血液由来加工サービスのビジネスモデル図】



① 提携医院数、② 加工受託件数、③ 平均加工受託件数(稼働率)を重要なKPIと設定し、新規提携数の拡大だけでなく既存提携先の稼働率向上を重視した施策を徹底。

また、親会社であるSBCメディカルグループ株式会社(※2)との連携も一層進展し、グループシナジーを活用した新たな事業機会の創出や販売基盤の強化を推進しております。当社グループの再生医療サービスと、SBCメディカルグループが有する国内有数の医療ネットワーク・顧客基盤との連携が進展し、新たなサービス展開や販路拡大の基盤構築が進んでおります。

キャッシュ創出基盤であるD2C事業においては、新規顧客獲得を目的とした広告投資を抑制し、既存顧客への販売強化および業務効率化を継続することで「収益性を重視した事業運営」を推進いたしました。

これらの結果、当社グループでは、高収益事業へのシフトが一段と進展するとともに、利益成長を伴う事業構造への転換が進みました。メディカルサポート事業を中心としたストック収益の積み上がりにより、成長の再現性と収益の安定性は一層高まり、中長期的な企業価値向上に向けた事業基盤が確実に強化されております。

以上の結果、当社グループの当第3四半期連結累計期間の売上高は2,039,078千円(前年同期比54.9%増)、営業利益は415,803千円(前年同期は営業損失32,842千円)、経常利益は409,767千円(前年同期は経常損失33,543千円)、親会社株主に帰属する四半期純利益は392,942千円(前年同期は親会社株主に帰属する四半期純損失61,528千円)となりました。

当社グループは、単なる再生医療関連サービスの提供企業ではなく、再生医療技術、医療機関ネットワーク、製造機能および顧客基盤を有機的に結び付ける企業として、持続的な利益成長と企業価値向上の実現を目指してまいります。

(連結経営成績の概況)

(単位：千円)	2025年9月期 第3四半期	2026年9月期 第3四半期	増減額 () 内増減率
売上高	1,316,505	2,039,078	722,572 (54.9%)
営業利益又は営業損失(△)	△32,842	415,803	448,645 (－)
経常利益又は経常損失(△)	△33,543	409,767	443,311 (－)
親会社株主に帰属する 四半期純利益又は親会社株 主に帰属する四半期純損失 (△)	△61,528	392,942	454,470 (－)

セグメント別の概況については、次のとおりです。

(メディカルサポート事業)

血液由来加工サービスにおきましては、利用者様からの需要の高まりを背景に血液由来加工件数が増加し、堅調に推移いたしました。KPIである提携医院数は844院（前年同期比219院増）、累計加工受託件数は21,818件（前年同期比8,487件増）といずれも期初計画を上回り推移いたしております。なお、稼働率は60.5%（前年同期比5.0pt減）と減少となりましたが、これは新規提携医院の先行拡大に伴うものであり、その後の稼働立ち上がりに伴い中期的には上昇トレンドに回帰する見込みです。

収益面におきましては、サービスの高度化およびオペレーション効率の改善、すなわち「ワンストップ型営業」（※3）を進めたことにより、効率性が向上し、中長期的な収益基盤の強化に寄与しております。

子会社のセルプロジヤパン株式会社を中心とした「原料販売事業」におきましても、安全性・品質面における高い信頼性を背景に、既存取引先の他、新たな取引先を開拓し、収益機会の確保を実現いたしました。

上記の結果、同事業における当第3四半期連結累計期間のセグメント売上高は1,312,291千円（前年同期比128.5%増）、セグメント利益は332,920千円（前年同期比1,705.4%増）となりました。

(D2C事業)

D2C事業におきましては、既存顧客基盤の収益最大化を重視した事業運営へと転換しております。具体的には、既存顧客へのクロスセル強化に加え、高収益モデルであるモールチャネルでの売上拡大に注力しております。さらに、AIボットの導入などを通じた顧客対応業務の効率化を推進し、固定費削減および収益性の向上に取り組みました。

上記の結果、同事業における当第3四半期連結累計期間のセグメント売上高は543,927千円（前年同期比26.0%減）、セグメント利益は237,741千円（前年同期比8.0%増）となりました。

(その他)

提携医療機関におけるサービスの高度化ニーズを背景に、海外の先進的な製品・技術の紹介および導入を引き続き推進いたしました。その結果、海外メーカーとの連携を通じた国内市場における当社グループのポジショニングが着実に積み上がりました。

上記の結果、同事業における当第3四半期連結会計期間の売上高は182,859千円(前年同期比2,357.6%増)、セグメント利益は126,347千円(前年同期は18,095千円の損失)となりました。

当社のバリュープロポジション

提携医院のニーズに基づき、海外の先進的な製品・技術の紹介および導入をするビジネスモデル

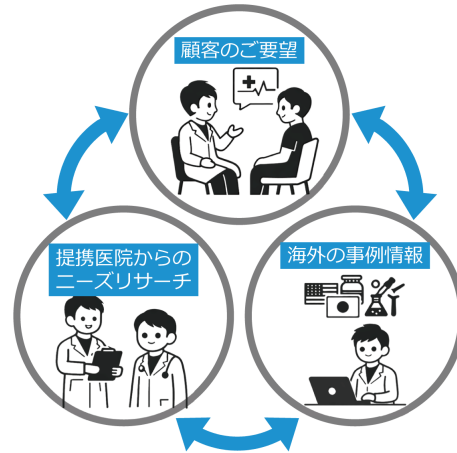
複数の海外メーカーとの早期関係構築により、先行者利益(ブランド認知、顧客基盤の確立、高価格設定、技術的なリーダーシップなどの優位性)を獲得

●競争優位性と参入障壁

「特許技術×R&Dデータ×医療機関ネットワーク」の三位一体構造

●成長拡張性

既存基盤を活用した、周辺領域への横展開が可能な拡張型モデル



本領域では、当社グループが有する医療機関ネットワークおよびデータ資産を基盤に、複数の製品・技術を横断的に展開することで、プラットフォーム型の収益モデルへの進化を目指しております。これにより、医療機関ネットワークの強化、顧客基盤の早期形成、高付加価値領域における価格優位性の確保、さらには技術的なリーダーシップの発揮といった複合的な競争優位性を実現してまいりたいと考えております。

(セグメント別の概況)

(単位：千円)		2025年9月期 第3四半期	2026年9月期 第3四半期	増減率
メディカル サポート事業	売上高	574,238	1,312,291	128.5%
	セグメント利益	18,440	332,920	1,705.4%
D2C事業	売上高	734,825	543,927	△26.0%
	セグメント利益	220,057	237,741	8.0%
その他	売上高	7,440	182,859	2,357.6%
	セグメント利益	△18,095	126,347	—
調整額	売上高	—	—	—
	セグメント利益	△253,244	△281,205	—
連結合計	売上高	1,316,505	2,039,078	54.9%
	セグメント利益	△32,842	415,803	—

(※1) Plasma Derived Factor - Freeze Dryの略称。自らの血液から抽出した血漿由来成分を凍結乾燥(Freeze Dry)し、凍結保存できるようにしたもの。当社代表取締役社長兼研究開発責任者 佐保 文平により開発された技術。

(※2) 先進的な美容医療をはじめ、皮膚科、整形外科、不妊治療、婦人科、歯科、脱毛症治療(AGA)、眼科など幅広い診療領域において、国内外の医療機関に経営支援を行うMedical Services Organization(医療経営支援会社)。2024年9月NASDAQ市場へ上場(ティッカー:SBC)。

(※3) 従来複数の担当者で分担していた活動を、担当者一人で新規契約からCS(PDF-FDを最大限に活用できるように支援する活動)までを行う営業スタイルのこと。

(2) 財政状態に関する説明

(資産)

当第3四半期連結会計期間末における流動資産は2,356,188千円となり、前連結会計年度末に比べ574,299千円の増加となりました。これは主に、現金及び預金が277,055千円、売掛金が211,986千円、商品及び製品が26,247千円増加したことによるものであります。

当第3四半期連結会計期間末における固定資産は1,327,163千円となり、前連結会計年度末に比べ90,112千円の減少となりました。これは主に、のれんの減少91,787千円によるものであります。

(負債)

当第3四半期連結会計期間末における流動負債は864,025千円となり、前連結会計年度末に比べ172,296千円の増加となりました。これは主に、未払法人税等が62,689千円減少したものの、未払金が230,170千円増加したことによるものであります。

当第3四半期連結会計期間末における固定負債は307,511千円となり、前連結会計年度末に比べ108,274千円の減少となりました。これは主に、長期借入金の減少109,313千円によるものであります。

(純資産)

当第3四半期連結会計期間末における純資産は2,511,814千円となり、前連結会計年度末に比べ420,164千円の増加となりました。これは主に、利益剰余金の増加392,942千円によるものであります。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

2026年9月期の業績予想につきましては、2026年8月7日に公表いたしました「2026年9月期 通期連結業績予想の修正に関するお知らせ」をご参照ください。

なお、今回の業績予想修正は、一時的な要因ではなく、事業ポートフォリオの転換および収益構造改善施策の進展を背景とするものです。

当社グループは、収益性の高い事業への経営資源の集中とSBCメディカルグループとの事業シナジーの創出をさらに推進するとともに、成長投資と収益性の向上を両立し、持続的な利益成長を通じた企業価値・株主価値の向上に取り組んでまいります。

2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2025年9月30日)	当第3四半期連結会計期間 (2026年6月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	1,302,301	1,579,357
売掛金	310,893	522,879
商品及び製品	87,618	113,865
仕掛品	10,376	10,556
原材料及び貯蔵品	15,173	12,723
その他	55,728	117,009
貸倒引当金	△204	△204
流動資産合計	1,781,888	2,356,188
固定資産		
有形固定資産	375,943	382,391
無形固定資産		
のれん	1,009,663	917,876
その他	2,050	1,323
無形固定資産合計	1,011,714	919,200
投資その他の資産		
その他	30,459	26,411
貸倒引当金	△840	△840
投資その他の資産合計	29,618	25,571
固定資産合計	1,417,275	1,327,163
資産合計	3,199,164	3,683,351
負債の部		
流動負債		
買掛金	4,183	33,753
短期借入金	190,000	190,000
1年内返済予定の長期借入金	199,888	147,980
未払金	121,097	351,267
未払法人税等	64,407	1,717
未払費用	37,716	47,278
賞与引当金	10,231	7,814
その他	64,204	84,215
流動負債合計	691,728	864,025
固定負債		
長期借入金	341,139	231,826
リース債務	390	306
資産除去債務	74,256	75,378
固定負債合計	415,785	307,511
負債合計	1,107,514	1,171,536

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2025年9月30日)	当第3四半期連結会計期間 (2026年6月30日)
純資産の部		
株主資本		
資本金	54,567	64,667
資本剰余金	2,466,417	2,476,517
利益剰余金	△338,607	54,335
自己株式	△99,977	△99,977
株主資本合計	2,082,400	2,495,542
新株予約権	9,249	16,271
純資産合計	2,091,650	2,511,814
負債純資産合計	3,199,164	3,683,351

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

四半期連結損益計算書

第3四半期連結累計期間

(単位：千円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 2024年10月1日 至 2025年6月30日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2025年10月1日 至 2026年6月30日)
売上高	1,316,505	2,039,078
売上原価	279,229	563,658
売上総利益	1,037,275	1,475,419
販売費及び一般管理費	1,070,117	1,059,616
営業利益又は営業損失(△)	△32,842	415,803
営業外収益		
受取利息	460	835
償却債権取立益	5,700	—
雑収入	337	80
営業外収益合計	6,497	915
営業外費用		
支払利息	6,321	6,951
雑損失	876	—
営業外費用合計	7,198	6,951
経常利益又は経常損失(△)	△33,543	409,767
税金等調整前四半期純利益又は税金等調整前四半期純損失(△)	△33,543	409,767
法人税、住民税及び事業税	28,046	12,949
法人税等調整額	△61	3,875
法人税等合計	27,984	16,825
四半期純利益又は四半期純損失(△)	△61,528	392,942
親会社株主に帰属する四半期純利益又は親会社株主に帰属する四半期純損失(△)	△61,528	392,942

四半期連結包括利益計算書

第3四半期連結累計期間

(単位：千円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 2024年10月1日 至 2025年6月30日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2025年10月1日 至 2026年6月30日)
四半期純利益又は四半期純損失(△)	△61,528	392,942
四半期包括利益	△61,528	392,942
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	△61,528	392,942

(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報並びに収益の分解情報

前第3四半期連結累計期間(自 2024年10月1日 至 2025年6月30日)

(単位:千円)

	報告セグメント			その他 (注) 1	合計	調整額 (注) 2	四半期連結 損益計算書 計上額 (注) 3
	メディカル サポート事 業	D2C事業	計				
売上高							
通販	—	731,256	731,256	—	731,256	—	731,256
血液加工	250,286	—	250,286	—	250,286	—	250,286
原料販売	323,952	—	323,952	—	323,952	—	323,952
その他	—	3,569	3,569	7,440	11,009	—	11,009
顧客との契約から生じる収益	574,238	734,825	1,309,064	7,440	1,316,505	—	1,316,505
外部顧客への売上高	574,238	734,825	1,309,064	7,440	1,316,505	—	1,316,505
セグメント間の内部売上高又は振替高	—	—	—	—	—	—	—
計	574,238	734,825	1,309,064	7,440	1,316,505	—	1,316,505
セグメント利益又は損失(△)	18,440	220,057	238,497	△18,095	220,401	△253,244	△32,842

(注) 1. 「その他」は報告セグメントに含まれていない事業セグメントであり、海外事業であります。

2. セグメント利益又は損失(△)の調整額△253,244千円は、主に報告セグメントに配分していない一般管理費等の全社費用であります。

3. セグメント利益又は損失(△)は、四半期連結損益計算書の営業損失と一致しております。

当第3四半期連結累計期間(自 2025年10月1日 至 2026年6月30日)

(単位:千円)

	報告セグメント			その他 (注) 1	合計	調整額 (注) 2	四半期連結 損益計算書 計上額 (注) 3
	メディカル サポート事 業	D2C事業	計				
売上高							
通販	—	542,377	542,377	—	542,377	—	542,377
血液加工	430,408	—	430,408	—	430,408	—	430,408
原料販売	417,395	—	417,395	—	417,395	—	417,395
その他	464,486	1,549	466,035	182,859	648,895	—	648,895
顧客との契約から生じる収益	1,312,291	543,927	1,856,218	182,859	2,039,078	—	2,039,078
外部顧客への売上高	1,312,291	543,927	1,856,218	182,859	2,039,078	—	2,039,078
セグメント間の内部売上高又は振替高	539	—	539	—	539	△539	—
計	1,312,830	543,927	1,856,757	182,859	2,039,617	△539	2,039,078
セグメント利益	332,920	237,741	570,661	126,347	697,009	△281,205	415,803

(注) 1. 「その他」は報告セグメントに含まれていない事業セグメントであり、海外事業であります。

2. セグメント利益の調整額△281,205千円は、主に報告セグメントに配分していない一般管理費等の全社費用であります。

3. セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と一致しております。

(キャッシュ・フロー計算書に関する注記)

当第3四半期連結累計期間に係る四半期連結キャッシュ・フロー計算書は作成しておりません。なお、第3四半期連結累計期間に係る減価償却費(のれんを除く無形固定資産に係る償却費を含む。)及びのれんの償却額は、次のとおりであります。

	前第3四半期連結累計期間 (自 2024年10月1日 至 2025年6月30日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2025年10月1日 至 2026年6月30日)
減価償却費	9,709千円	11,417千円
のれんの償却額	91,787千円	91,787千円

(重要な後発事象)

該当事項はありません。